

ある日の育児日記から

(95)

佐藤 和代



有の保育園で、秋祭りがありました。ここには「迷人劇場」なるステージがあり、先生方の人形劇、○○君のパパのマジックショー、××ちゃんのママの風船芸…と、毎年楽しい出し物がそろっているのですが、今年はこれに年長組が全員で出場。Kさん親子のピアノとYちゃんのバイオリンの伴奏で、みんなで英語で「キラキラ星」を歌うとか。歌は実習生が教え、まとめ役と指揮はYちゃんのお父さん。ちょっと聞くとなかなかの内容だけれど、ぶっつけ本番に近いらしい。大丈夫かな。曲が始まりました。ピアノもバイオリンも上手

で、会場はほおー、という雰囲気。でも歌がはいると、一気に笑いのうず。歌というより、てんであらばらにしゃべっているだけみたい。有はどこかな、と見ると、うしろのほうにいたくせに、いつの間にか前に出てきて私に手を振っている。こらっ、ステージで歩くんじゃないっ！ やきもきしている私の耳に、近くのお母さんたちの声が聞こえてきました。「この保育園いいわね、うちの子の幼稚園なんて、軍隊みたいよ」…そう聞くと、こんな歌もいいわね、という気になるから不思議。子どもたちは笑いと拍手の中、みんな笑顔で舞台を降りていきました。

